

「とちぎの子ども育成憲章」の実践

活動名	どんど焼き		
年月日	作成：平成24年12月9日 どんど焼き：平成25年1月13日	場所	真岡市 堀内公民館前圃場
参加者	堀内子ども会育成会会員、堀内区住民		

関連する憲章の条文

一. とちぎの豊かな自然 伝統 文化を守り 子どもたちに引き継ぎます

「どんど焼き」とは、田んぼに長い竹や木、わら、茅、杉の葉などでやぐらを作り、そこへ地域の住民が家々から持ち寄った正月の松飾り、しめ縄、書初めなどを積み上げて燃やす全国各地で行われている小正月の火祭り行事です。どんど焼きの火にあたり、そこで焼いた団子やもちを食べたりすれば、健康でいられるという言い伝えがあるなど、無病息災、五穀豊穡を祈る民間伝承行事です。

堀内子ども会育成会では、毎年正月にどんど焼きを実施しています。

やぐら作成

子どもと保護者が公民館近くの田んぼに集まり、分担して材料集めに行きます。やぐらの骨組みとなる孟宗竹、御神木となる真竹、やぐらを覆う真竹・篠竹、さらにその外側を覆う茅、稲わらを分担して集めます。稲わらは稲刈りの後集めておいたものを使います。

材料が集まり次第製作に取り掛かります。みんなの記憶をもとにつくりますので、設計図はありません。また、それぞれが必要な道具を持ち寄るので道具の心配もありません。それぞれが自分の役割を自覚しどんどん進めていきます。

出来上がりが6～7メートルになる大きなやぐらは主に大人が作ります。それとは別にここ数年子ども達が見よう見まねで小さいやぐらを作るようになりました。子ども達が作りたいように作ります。今年は小さいやぐらが2つもできました。大人は子どもが困っているときのみ手を出すくらいです。

半日ほどかかりましたが、大小合わせて3つのやぐらができました。



大きいやぐら作りの様子

子ども達が見よう見まねで作っているところ

やぐら完成

どんど焼き

夕方になると地域の人々が正月の松飾り、しめ縄などもって集まってきます。子ども会では、やきそばやけんちん汁を皆さんに振舞います。世代を超え地域の方々が集まるのが、このどんど焼きのよさの一つです。

日が暮れいよいよ点火の時間です。小学6年生、中学3年生、数名の大人が点火します。あっという間にやぐらが燃え上がります。竹の勢いよくはじける音にびっくりしながらも、大きく燃える炎にみな見入っていました。



食材を切り、けんちん汁、焼きそばを作る

燃え上がるやぐら